Myuは素の自分に戻れる大切な場所

冬至は昔から「太陽が生まれ変わる日」と考えられていたそうです。生きる力も回復する希望に満ちる冬至の日は、カボチャを食べたり、柚子湯に入ったりして、病気をせず元気で幸せを願う風習があるそうです。今回は、みの～れ住民劇団「演劇ファミリーＭｙｕ」のメンバーとして活動する石岡市にお住まいの安富由紀子さんを紹介します。

みの～れ住民劇団 演劇ファミリーMyu

安富 由紀子（やすとみ ゆきこ）さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life のすすめ No.195

役割と場を与えてくれる

「世の中をもっと良くしたい。困っている人を助けたい」と考え、看護大学へ。卒業後、都内の大学病院で6年間勤務。「看護師は天職でした。理想と現実のギャップとか言われがちな仕事ですが、人が好きな私にぴったりでした」と振り返ります。

夫の悠介さんとは友人夫婦を介して知り合いました。悠介さんが金融の仕事から教員への転職を志し、兵庫県の大学院に入るのをきっかけに結婚。由紀子さんも都内病院から兵庫県の病院に移り3年間勤務。東京生まれの悠介さんと茨城で育った由紀子さんの間をとって、埼玉県へ。2人目のお子さん誕生を機に由紀子さんの実家がある石岡市に戻ってきました。「八郷で農家を営む友達もできて、自然を身近に感じる生活を希望していた夫は、こんなに幸せでいいのかなっていうくらい心地よさを満喫しているようです」と笑顔。

保健師の資格も持つ由紀子さんは、平成31年に小美玉市役所の保健師に採用され、四季健康館で勤務。「小美玉市のシティプロモーションが本当に凄くて、担当の中本さんに私の担当業務の広報をどうしたらいいか相談をしているうちに、Ｍｙｕを支えている人だと知りました。Ｍｙｕは子どものためになるだろうと考えて入れたのですが、付き添いで来てみて、これは自分でも入ったほうがいいに違いない」と確信。

昨年のみの～れ20歳記念ミュージカル「黄色い袋と魔法のトンネル」で長女と共に初舞台を経験。「みの～れは自分を受け入れてくれて、役割と場を与えてくれるのが魅力」と由紀子さん。Ｍｙｕはみんなが素に戻れる場所で、自分に付いた余計なものがどんどん剥がれていく感覚があるそう。「子どもも大人も、年齢関係なく本気で取り組むからこそ輝いているのだと思います。私もＭｙｕの一員でいられて幸せです」と目を輝かせて語ります。

2月に「ボクの明日は30年後」というＭｙｕオリジナル演劇に出演。今回は18歳以上の大人メンバーだけで創る初の取り組み。「Ｍｙｕの仲間たちからたくさん刺激を受け、磨き合って、とても充実しています。稽古の日は夫が子どもたちを見ててくれていて感謝です。次女ももう少しでＭｙｕに入れる年齢なので、いつか家族4人で舞台に立てたら」と素敵な笑顔で話してくれました。

（藤田佐知子）